



# NPO 金沢杜の里 NEWS

2020.11 No.36



令和2年10月  
杜の里小運動会

## 子供たちの笑顔が見たい！



杜もり青年隊

隊長 駒井 宏之

杜の里小学校の校下は、春には金沢市の女川と言われ  
る浅野川沿いの桜が満開となり、初夏には角間川やせせ  
らぎ水路でホタルが飛び交い、秋には 卯辰山の綺麗な  
紅葉を眺め、冬には市中心よりも少し多めの降雪を踏み  
しめることができるなど四季を感じられる自然環境の豊  
かな地域ではないでしょうか。また、北陸大学や金沢大  
学も近くあることから、学生が多い活気や賑わいのある  
地域であるとも感じています。

さて、杜もり青年隊はその地域にある杜の里小学校の  
いわば「お父さん会」です。

『子供たちの笑顔が見たい』をスローガンに掲げて平成  
二十三年に発足し、学校や地域イベントのお手伝いを通して  
子供たちの笑顔満開を促進しています。毎年六月の父の  
日には、「お父さんと作ろう！杜もりカレー！」を主催  
し、たくさんの親子がカレー作りを通して笑顔になっ  
て帰り、好評を頂いております。

今年も青年隊として、見ら少しでも学校の子供たちや  
地域に貢献していきたいと思っています。また、そうい  
った協力の要請にも応えて行きたい思いますので、何か  
協力して欲しいとの声があれば気軽に一声かけて下さい。

地域の発展のため、共に歩みましょう！

# まちづくり活動

令和2年4月～令和2年10月



緑地小公園管理・除草(毎月)



第1回花苗配置(4/4)



第2回花苗植替え(5/9)



私有地草刈り(5/30)



第3回花苗植替え(6/20)



私有地樹木剪定(7/1)



私有地草刈り(8/2)



ベンチ塗替え(8/22)



チューリップ球根植付(10/24)

## 街の声

〔NEWS No.35号(R27)等のご意見・感想から〕

☆わが町・探訪シリーズの「鈴見分校」と「国民学校」を読み、鈴見分校に四年生まで通っていたので、すこしくなつかしかったです。

☆NPO金沢杜の里では、国際交流センターとの交流事業で協力されていますが、これはコロナ禍のため実施できないかも知れませんね。でも、もし実施されるようでしたら、ぜひ参加したいです。いつも熱心なご活躍、尊敬しています。

☆自粛生活の頃、運動不足解消にと時々ウォーキングをしていました。普段は気づかないのに、小さな公園がたくさんあるということに驚きました。今回のパズルも答えが先にわかったという難問でしたが、これもウォーキングのこぼれ声ですかね。

☆道路沿いにベゴニア、マリーゴールド、インパチエンス等が植替えられた花に癒されています。いつもお世話有難うございます。

☆わが町・探訪シリーズ(戦争中の記事)身近な地元の方の話は初めてです。(を毎号楽しみに拝見させていただいています。ある程度まとまりましたら、是非冊子にさせていただきたいです。令和2年度の事業計画では、とても多くのことをなされているのでびっくりしました。地域の美化だけでなく学生、国際交流活動もされており、すごいなあと思いました。役員の皆さんには頭が下がります。これからも杜の里の地域づくりへの活躍祈っております。ありがとうございます。

☆わが町・探訪シリーズがおもしろいです。地元の歴史がわかり、ここで育っていない私にとって知らない話が多いです。

☆「郷土こぼれ話」が面白いですね。田舎には昔はその土地に伝わる民話語り繋がっていたものです。もっと発掘してください。次回は楽しみです。☆コロナ・コロナとなんか気持ちの落ち込みがきていた時、広報がきて、ちょっと持ち直してパズルで楽しめました。イオン杜の里での帰り、廻り道して栃ノ木通りのプランターの花が満開でホットな心になりました。

☆季節柄、蛍を深索しようとせせらぎ水路を散歩、二・三匹の夜光を発見。今年の長梅雨のせいでしょうか？生き乍らえてよかったです。しかし、せみの声が未だに聞かれないのが淋しいし、カットと晴れての梅雨明けを待ちどおしいものだ！

☆コロナウイルスで大変ななか、「杜の里NEWS」での明るい話題、本当にありがたいことです。郷土こぼれ話のなかで、勝負はなく、若者の一人一人が大切に気付くあたりが、とても良いですね。

☆今回(No.35)の一面は、毎日通勤とおる馴染の山道、日々変貌に驚くばかり。ここまで発展、自然も緑いっぱいの通りになるとは、地域の皆様の二十数年、更に今も営々とした努力のおかげです。

☆「郷土こぼれ話」とてもよかったです。力自慢で力太郎に失敗して負けた大比、負けたことよりもけがをしなかったことを喜ぶ村人に、なぜかホッとしました。

## わが町・探訪シリーズ17 「杜の里小学校」と「旭町の通学校」

「杜の里小学校」は平成19年(2007)4月1日創立。全校生徒は486名、初代校長は田上小学校から転任した山中満校長でした。杜の里小学校の位置は若松町ですが、北隣は鈴見町、西隣はかつて旭町中島(現もりの里2丁目)でした。通学区域に配慮した位置に建てられていることは分かりますが、なぜ、若松町の小学校が杜の里小学校なのでしょう。この疑問について「若松・鈴見土地区画整理事業」の「完工記念誌」は、「校名の「杜の里」は土地区画整理事業に生まれた街をさし、町名の「もりの里」とは区別して使われている。とあり、さらに「1986年(昭和61)7月石川県・金沢市などが大学門前街づくりのマスタープランを作成するため、「大学門前街づくり協議会」(県・市・大学職員・学識経験者・若松鈴見組合委員)を発足させ、昭和63年3月に【金沢「杜の里」街づくりの道標】を完成させた。この時、大学門前街のシンボルテーマを【金沢杜の里・藍色の街・若者・そして躍動】とし、愛称は「杜の里」が採用された。その後「杜の里」は店舗名や集合住宅名にも使われ、アンケート調査でも「杜の里」は多くの住民の支持があった。町名でも「杜の里」を計画していたが、「杜」は常用漢字になく、やむなく、「もりの里」にした。」と記しています。

若松と鈴見は鈴見小学校創立以来共にありましたが、昭和40年(1965)、鈴見分校の廃止により分かれ鈴見地域の生徒は鈴見橋を渡り材木小学校へ、若松地域の生徒は若松橋を渡り、小立野小学校に通いました。一方の旭町は当初地元の牛坂小学校でしたが、明治の中頃より70年近く小立野台に通学していました。さかのぼれば、旭町は昭和11年(1936)3月まで「石川郡崎浦村大字牛坂」でした。河北郡だった鈴見と若松の貴重な平地の中島(現もりの里2・3丁目)が牛坂村領だったことから、古来深い関係にあったことが推測されます。「牛坂小学校」の創立年は定かではありませんが、明治の初めの頃には駒谷家(現青雲寺)の敷地に開設されていたといわれています。明治24年(1891)6月、「牛坂小学校」は笠舞小学校と大桑



小学校と共に「上野新小学校」に統合されています。

上野新小学校は明治19年(1886)7月、現在の崎浦公民館を含む上野の地に建てられた新校舎でした。明治25年4月、館小学校を統合、明治28年(1895)に校名を「崎浦尋常小学校」に改称しています。明治45年(1912)高等科(現中学校)を併設、「崎浦尋常高等小学校」となり、昭和11年(1936)4月、石川郡崎浦村は金沢市に編入、「金沢市崎浦尋常小学校」となります。昭和16年(1941)から昭和22年3月まで「崎浦学校」、4月、「金沢市立崎浦小学校」に改称されます。昭和34年(1959)3月、石引小学校と崎浦小学校は新たに開校した「小立野小学校」に統合吸収され、歴史のある崎浦小学校は廃校になりました。昭和53年(1978)4月、旭町と若松地域は新築移転した田上小学校に編入されます。旭町1丁目の生徒は、下田上橋横の歩道から農道を歩き田上小学校へ、2・3丁目の生徒は、通称学童橋(旭橋)を渡り、中瀬で若松の生徒と合流、鈴見分校の生徒が48年間通学した思い出の「森の道」(旧国立若松病院)を抜けると、田んぼに囲まれた「田上小学校」がありました。旭町の通学校が幾多の返還をへた証として、旭町のある親子四代が学んだ小学校は、「崎浦・小立野・田上・杜の里」の4校だといふ。郷土歴史研究家 亀田輝之

## 郷土こぼれ話

### 大刀の山とちようずばち③

その頃、郷や村には石切りや石運びの命令が出されていて、割当ての石を期日までにしなねばならなかったのである。こうしたわけで一人でも力持ちが欠けることは痛いことであった。「もうやめさせようじゃないか。」「そんなわけにはいかん。力太郎に勝たせねば。」「あぶないからやめろ。今までに持ったものはないじゃないか。」「いや、反対。」「やらせろ。」「こんな騒ぎにも、力太郎は正座したまま目をつぶって待っていた。まるで祈っているかのようであった。この姿を見やった行司は、騒いでいる村人に向って言った。「みなさん。静かに。」「行司の声は、騒ぐ村人にもはっきりと伝わった。そして言った。「では、次は力太郎。くれぐれも注意を怠らないように。」「力太郎は静かに立ち上がり、石に歩み寄って手をかけた。そして手の当たりぐあいを調べていたかと思うと。「ウーン、エーイッ。」「かけ声と共に、どうにか石を持ち上げた。「何年ぶりの新記録だ。」「太比を応援していた者も大きな拍手を贈って喜んだ。石をおろすと、人々は力太郎を取り囲んでしまった。「おめでと力太郎、よくやった。」「郷一番の力持ち力太郎。ばんざい。」「年寄りはいうまでもなく、男どもや女ども、子供にまでもみくちゃにされながら祝福されていた。」「力太郎の新記録にわく間に太比は抜け出して行った。悲しくなってきた、とてもそこにはおられなかった。太比は山をめざしていっさんに走った。「どうして…どうして…どうしてだめなんだ。おれはきょうの

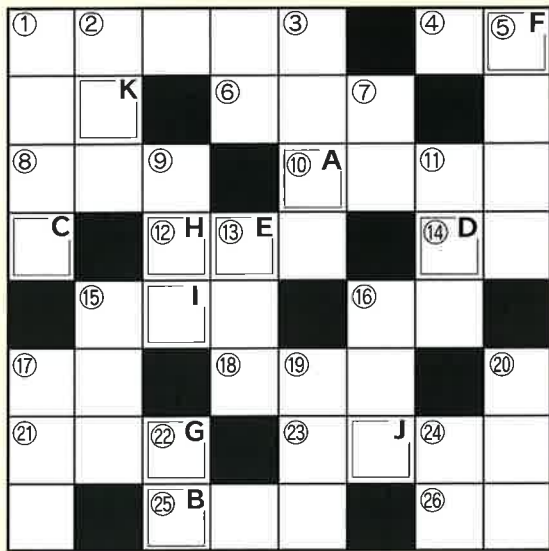
ために1年もかかってきたのに。」「疲れと涙でせきこんで、もう言葉にならなかった。もう山を登りきっていたが、山頂を目の前にして力がついてとうとう倒れてしまった。やがて太比はうずくまったまま祈っていた。「どうか神様、お助け下さい。自分の力だけではどうにもなりません。」「太比は力つきて初めて祈ることを知ったのである。その時、ぽっと明るくなったかと思うと、神々しい神の姿が現われて言った。「野心なんぞ捨てるがよい。いつも祈る心を持って、真心こめて務めに励みなさい。さあ、きょう持てなかつた石をあす試してみるがよい。祈る心を決して忘れないでな。」「太比は驚き、「おお、神様。」と叫んだが、その時、姿は見えなくなった。ふと我にかえった太比は、何だか胸の中がすうっと清められたように思った。そして体が活力であふれるようであった。太比はすっかり元気をとり戻して山を下りていった。次の日、太比は朝早くお宮の境内へ出かけた。ところが、きのう持てなかつた大きな石は、どこにもなかった。「おかしいな、神は「きのう持てなかつた石をあす試してみるがよい。」と教えて下さったはずだが、やはり思い違っていたのか」とがっかりしていると、ちようず鉢もないことに気づいた。



数回にわたって掲載します。

資料/わがふるさと 今・むかし 一田上校下の歴史

# クロスワードパズル



答	A	B	C	D	E	F	G
	H	I	J	K			公園

## 応募方法

◎郵便はがきに解答と住所、氏名、感想等を記入し、11月30日までに、次の所へお送りください。  
〒920-1165 金沢市若松町3-281  
NPO金沢杜の里情報公開委員会係

## お知らせコーナー

### 問合せQ&A

**Q.** 自然環境整備保全支援事業で、ホタル育成活動はどのような事業ですか。

**A.** 水と緑豊かな地域の原風景を後世に伝え、浅野川等の河川保護と里山の保全に関わる団体等の活動を支援しております。特にホタルの育成活動は、例年、杜の里小学校3年生の総合学習の一環として、ホタルの幼虫飼育・観察を9月末から2カ月間、当事務所をホタルの宿に、毎日4・5人が休憩時間に「飼育・観察」を行ってきましたが、今年から5年生が担当し、3月末にせせらぎ水路に放流する行事を支援しています。今年で11年目です。

**Q.** せせらぎ水路をよく散歩するが、外灯が大半消えており、防犯面から修繕されたほうが良いが、どこが行うのですか。

**A.** 安心して住みよい街づくり環境をつくるために、町会等を通じて、行政に連絡し修繕を行っているものです。

## 11月～3年3月の行事予定

### ◎環境保全・花いっぱい運動事業

- ・花苗植付 (11月14日)
- ・プランター撤去 (11月28日)
- ・チューリップ配置 (3月中旬)
- ・公共設備等の点検整備 (適宜)

### ◎自然環境整備保全事業

- ・ホタルの育成、観察、放流支援(1月～3月)

### ◎地域美化運動推進事業

- ・落葉清掃 (12月5日)

## ヨコのカギ

- 竹等に飾り付け風に靡かせたもの
- 蚊を防ぐために寝室等に吊るすおおい
- 湧水
- 人が多くて賑わう町
- 初めて買い物をする事
- ある物事によって生じた事態
- 魚を水中から取る時に使うもの
- 南米のペルー等を中心にケチュア族が築いた国
- 個体を砕いて細かくなったもの
- 物のある場所
- 味方・仲間
- 東の方
- 歯を磨くこと
- 官職等における身分の段階
- 顔の一部

## タテのカギ

- 煮え立つこと
- 金を主成分として造った貨幣
- 富士山は山梨県とある県に
- さつま芋を蒸し焼きにしたもの
- 異なる考え
- 腰にさす片刃の武器
- 言われた用事をする事
- 一筋に思い込む
- ちよつと耳にする
- 権力、威力で抑えつけること
- 配達や配給が遅れる
- 家等が建っていない土地
- 劇場、舞台の間に垂らす布
- 画面を枠に入れて壁等に掛けておくもの

- ◎36号の正解者の中から抽選で15名様に粗品を12月上旬に発送します。  
◎36号の解答は、令和3年4月発行の37号に掲載します。  
◎35号の解答は「ナカセトチノキ」公園でした。

## ふるさと探訪

金沢市立杜の里小5年生

### 里山の自然のなかで、稲刈りをしました

9月15日(火)、角間新町にある奥卯辰山県民公社里山保全園地において5年生84名が稲刈り体験をしました。はじめに、管理センターの方から、田植えから今日までの稲の管理の様子と、刈り取った稲を甘くて美味しいお米にするために、稲の束を「稲架掛け」にする方法を教えていただきました。

今年は、新型コロナウイルス感染症予防のため、例年と違って、田植えを経験せず、稲刈りだけの体験となりましたが、外の空気を吸いながら皆で協力して稲を刈る作業は、とても楽しく嬉しい活動だったようです。

田んぼに降り立った子供達は、最初は鎌を持つ手も恐る恐るでしたが、段々慣れてきて、大胆になり「ザッ、ザッ!」と勢いよく鎌を使って稲を刈り、友達と協力し合って縄でわらの束を縛っていました。稲を刈ったり束ねたり、稲架にかけたりとお米作りの大変さを経験し、お米一粒一粒の大切さを実感したようです。後日いただいたお米は、家庭科の調理実習で炊いて食べる予定です。また、11月のモリモリ発表会で、里山の自然や環境保全について各自が課題を持ち、調べたことを、4年生に発信していく予定です。



今年は、新型コロナウイルス感染拡大を防ぐため、もりの里桜祭り等各種行事等のイベントが中止となりました。来年は盛大に開催できることを願っています。

当法人は今年も沿道脇にペコニアの花苗を彩り、緑豊かな自然環境と景観を保全し、緑と花の溢れる街づくり活動を会員一同取り組んできました。これらの取り組みについて、皆さまの暖かいご意見、感想等のお便りが更なる街づくり事業の励みになります。また、当法人の活動に携わっていただける会員を募っています。(編集後記)